

国際交流基金助成事業報告書

大阪薬科大学 薬学部 2年次生 島田麻里

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、平成26年8月2日から8月24日の3週間、イギリスのロンドンを訪問しましたので、報告いたします。滞在中は、ホームステイをしながら語学学校 **Frances King School of English** に通い、英語のスピーキング・リスニングとコミュニケーションスキル向上に取り組みました。また、授業の英語にとどまらず、積極的に英語を使う場面を増やすため、学校のアクティビティ・プログラムを活用し、植物園やフリーマーケット見学ツアーに参加しました。さらに薬学関連の資料館にも行きました。

2. 語学学校

クラスは7レベルに分かれており、事前にオンラインテストを受けてクラス分けされました。私のクラスは生徒10人で、国籍はイタリア、スペイン、日本、ブラジル、韓国、トルコ、ロシア、台湾、サウジアラビアでした。授業内容は、午前に文法・スピーキング・リーディング・リスニング、午後にディスカッションとライティング・語彙を学習しました。どの授業にも当てはまることは、授業は皆で話し合う場で、意見や質問があればいつでも発言できることです。最初は驚きましたが、私も気になることがあれば質問して疑問をすぐに解決することができましたのですっきりしました。午前のコースでは、毎回2人ずつペアになり、配布された新聞から1つの記事を選び、その内容をクラスメートに紹介しました。お互い英語のイントネーションが違うので聞きづらいこともありましたが、ネイティブスピーカーの方のみと英語を話すわけではないので、耳が慣れるよう努力しました。最後まで難しかったです。

クラスメートの国籍は多岐にわたり、大学生から社会人まで様々な方がおられました。サウジアラビア出身で赤十字に勤務している薬剤師の **Mohammed** さんには、薬理学と薬物動態学が最重要で、病院に就職するのであれば専門薬剤師のような専門分野のある病院のほうが良いとアドバイスを頂きました。また、ブラジル・サンパウロ出身で薬学部3年生の **Karen** さんには、ブラジルの薬学部は5年と6年のコースがあり、5年コースのほうが授業が1日に集中しているため1年早く卒業できると教えてもらいました。彼女は3年生でいながらすでに地元の製薬企業に就職したいという明確な目標を持っており、私も将来のことを考えるきっかけになりました。



語学学校の教室 先生とクラスメート

選択した授業の一環で週 2 回 **Lunch Club** に参加しました。これは 1 人の先生につき生徒 5 ~ 6 人で学校の近くのレストランに行き軽食をとりながら、交流を深めるプログラムです。毎回先生と生徒が入れ替わるので、自己紹介の練習にもなりました。自己紹介はその国の紹介でもあり、新聞やテレビ通りのこともあれば違っていることもあり、それらの国について再発見できました。私の知らない日本事情を聞くことも面白かったです。日本の観光地を聞かれ、東京や京都の紹介はしましたが、何故か長年住んでいる大阪の名所は思いつかず、説明し損ないました。事前に出身地の簡単な説明は考えておいたほうが良かったと思いました。**Lunch Club** のおかげでレストランやスーパーに入ってレジを済ますような日常生活にも慣れることができました。

3. アクティビティ・プログラム

私が通った語学学校には、毎日放課後にロンドン市内または郊外を散策するイベントがありました。仲良くなったクラスメートと参加し、8月9日はアンティーク、イギリスらしいおみやげ、古着、雑貨、生鮮食品等が揃うストリート・マーケット **Portobello Road Market**、8月15日は植物園 **Chelsea Physic Garden** へ行きました。ここは1673年に設立されたロンドン最古の植物園で、日本の薬用植物園と似ています。しかし、植物の種類が多だけでなく、展示の仕方にも工夫があり、見た目も宮殿の庭園のように綺麗でした。展示は症状別（腫瘍、皮膚炎、心臓病、鎮痛・麻酔、眼病等々）、国別（北米インディアン、ニュージーランドのマオリ、オーストラリアのアボリジニ等）、食用・有用植物（ビタミン A、B、C、E、K を含むもの、香水や化粧品に使うもの）でしたので、同じ植物が複数箇所に植わっていることもありました。今回はボランティア・ガイド・ツアーに参加し、スタッフ 1 名とその他見学者と一緒に園内を見学しました。植物の学名の多くはラテン語で表記されており、生薬学で暗記した植物 **Papaver somniferum**、**Foeniculum vulgare**、**Panax ginseng** 等をすぐに見つけられ、共通語のよさを実感しました。雨が多く気温が高くない中、世界の植物が育てられ、沢山のミツバチや鳥が生息する自然な環境は素晴らしかったです。



Portobello Road Market にて
映画「ノッティングヒルの恋人」
で登場する本屋



植物園 エントランスの看板



Catharanthus roseus
植物の成分を小児白血病の
治療薬に使用



有用植物コーナー
Vitamin E&K 含有植物



写真中央の植物
をパネルで解説

4. ホームステイ

語学学校で英語のスピーキングは行いますが、話す相手は主にクラスメートです。そこで、ネイティブスピーカーと会話する機会を増やせるホームステイを選びました。滞在先はロンドン郊外のウィンブルドンで、住宅地はとても静かで緑が多かったです。近くの公園では、リスやアヒル、トナカイが見られました。ホストマザーの Sarah さんは本当に親切で料理上手な方でした。食事は日本よりシンプルなものが多いと思っていましたが、毎日の夕食は手料理を振舞って頂きました。朝食はスコーンや菓子パン、ヨーグルト、フルーツに紅茶でした。夕食は野菜中心で、サラダ、温野菜、マッシュポテトにパスタやビーフシチューでした。よくイギリス人は野菜や麺をゆで過ぎると言われますが、そのイメージは払拭されました。イギリスで伝統のあるカスタードプディングやアップルクランブルのお菓子やマーマイトというトーストに塗って食べる、茶色く塩気のある発酵食品にもトライしました。

Sarah さんには数多くの観光スポットを紹介してもらい、その中でもおすすめの美術館 Victoria and Albert Museum とロンドン郊外のグリニッジ天文台に行きました。また、休日の夕食は Sarah さんの友人である Michael さんと頂きました。彼の兄弟が現在東京で暮らしているため、日本についてとても詳しくかったです。寿司、布団、習字に興味があるそうで、沢山の質問を受けました。また、ブラジルとフランスで英語を教えていた経験があり、私のためにゆっくり分かりやすく話してくれました。3週間という短い期間でしたが、会話には笑顔と相手の話を聞いていますという相槌や合図が欠かせないことがよく分かりました。私は表情が硬いと指摘を受けることが多いので、この研修中はうまく英語が話せなくても、理解している、楽しんでいることを伝えるために表情を意識しました。



ホームステイ先の駅付近

5. 資料館の見学

St Bartholomew's Hospital Museum と Science Museum の2ヶ所を見学しました。

1ヶ所目の St Bartholomew's Hospital Museum では、この病院が歩んできた歴史について、ビデオ鑑賞や医療器具、彫刻、記録文書、スケッチを通じて知ることができます。イギリス最古の病院で、1123年に病院兼修道院として造られました。1666年のロンドン大火や第二次世界大戦のドイツ空軍によるロンドン大空襲とともに歴史を刻み、約900年間同じ場所に残っています。設立当初は病人、障害者、孤児、老人に食事や生活スペースを提供していました。1843年聖バーソロミュー医学学校が創設され、現在のロンドン大学クイーン・メアリーの医学部にあたります。一方、病院は救急救命部門が廃止されるも、心臓疾患の治療やがんの研究治療を中心とした病院として今もなお機能しています。



病院の建物

今回の見学では、これまでの病院と近くの教会内の様子をパネル展示で知るとともに、薬剤師が使用した天秤、錠剤製造装置、薬を保存するための瓶や陶器を鑑賞しました。



19世紀の錠剤製造機械
1回服用量に薬を切断



軟膏を保存した陶器

2ヶ所目の Science Museum は4階と5階が医学系の展示コーナーでした。4階は古代エジプトから現代までの解剖に関する古書や医療器具を解説・展示、5階は各年代の歯科、眼科、外科の診察室を、医師と患者の様子を含めて実寸大の模型で再現していました。

医薬品に使う植物に関しては、ヨーロッパでは1492年アメリカ大陸を発見して以来、薬に利用できる新種が次々と輸入され、その6年後アジアへの海路が開き、インドからルバーブ、日本から樟脳、東インド諸国からナツメグが入ってきたそうです。16～17世紀頃はユニコーンの角やサンゴの粉のような動物、鉱物の薬は少なく、大半は植物由来だったと分かりました。

6. 感想

この3週間で沢山の出会いがありました。SNSの普及によってチャットや無料電話を通じ簡単に海外の友達と交流することはできますが、やはり直接会って時間を共有する楽しさやドキドキ感には勝りません。研修以前の私の英語レベルは手短な自己紹介ができる程度でしたので、積極的に自分から会話を始めることを目標にしました。最初はどのように声をかけたらよいのか分かりませんでした。友達がかけてくれた言葉を、次回会ったときに使えるように暗記し、活用することを繰り返しました。3週間の語学研修を終えた頃にはなまりがあるものの自然に会話に取り入れることができました。今回の研修前に比べて英語を話す度胸がついたと感じています。出会った人々の国、文化、歴史、作家やスポーツ選手のような著名な人物に関する知識があることで会話が弾み、お互いの理解や友情が深まると分かりました。

このようなかけがえのない体験を積むことができましたのも国際交流基金のおかげです。ありがとうございました。